



センリョウの現地検討会を開催し、生産能力向上に取り組む

このほかにも平成14年度から霊芝、平成17年度からナンテンとリョクチクという新たな作目の栽培を開始しています。育林の分野では、成長の早いセンダンの植栽・保育に取り組んでおり、県の林業研究指導所と現地検討や意見交換を積極的に進めています。センダンは適度な肥培管理を行うと非常に成長が良いため「造林」というよりは「栽培」としてのイメージ

や県内外にある先進地の視察、栽培方法に係る現地検討会を開催するなど、所得を向上させるための品質・規格に関する研究活動を積極的に実施しています。

今後は、病虫害対策について、さらなる検討を行い、品質を高め、規格を揃えることができるよう、栽培技術の改善・研究を行う予定です。



苓北町山村研究会会員の皆さん



会員による霊芝栽培の共同作業

## WE LOVE forest ! 林業研究グループ

# 苓北町山村研究会

会長	福田富治
会員数	11名
設立	平成12年4月

### ■やり甲斐を実感できる 林研活動

苓北町山村研究会が活動している苓北町は、天草下島の西北端に位置し、熊本市から120kmの地点にあります。民有林面積は、4125haで町の面積の62%を占め、そのうち約50%がヒノキを中心とする人工林で、平成13年度に開通した森林基幹道を中心に森林施業の推進が図られています。当研究会の前身である

林業研究クラブは、間伐材の出荷などを積極的に行っていました。材価の低迷、台風襲来による森林被害、会員の高齢化などにより、林業経営意欲が低下し、素材生産活動の困難な状況が続き、林研活動から離れる会員も出てきました。そこで短期間で現金収入を得ることのできるやり甲斐を実感でき、地域の幅広い住民を取り込むことができた。特用林産物の生産を中心とした活動を開始しました。その後、特用林産物の栽培だけでなく、林業技術の研究、所得の向上、ならびに地域林業の指導的役割を果たすことを目的として、平成12年度に



センリョウ出荷先市場に向いての市況調査を行いニーズに応じた規格品質の確保を目指す

苓北町山村研究会を発足させました。現在、会員は男性9名、女性2名の計11名です。平均年齢67歳と高齢者の多い会ではありますが、生涯を通してやり甲斐のあるものに取り組みたいという気持ちで活動を行っています。

### ■新たな作目にも積極的に取り組む

現在の主力はセンリョウで、頃から会員間で栽培方法や生育状況など意見交換を行っているほか、仕分けや出荷については共同作業を行っています。また、出荷先市場での市況調査

1ジで今後の保育作業を行うこととしてしています。

このほか、木材の利用促進策として、地元苓北町で実施されている木製魚礁投入事業に間伐材を出荷するなどの取り組みも行っていきます。

### ■地域住民とふれあう中で 木や特用林産物をPR

生産活動以外にも、小学生を対象とした炭焼き体験、シイタケの駒打ち教室、植樹活動など特用林産物や木に触れ合うことを通じた地域住民との交流、そして協賛団体として地元の祭りやイベント等に例年参加するなど、地域活動にも積極的に参加、協力しています。



シイタケ駒打ち体験を開催し地域住民に特用林産物に親しんでもらう

を中心とした生産活動を継続発展させるとともに、地域林業のリーダーとして活動し、山村地域の活性化の一役を担っていきたくと考えています。

(まごめ)熊本県天草地域振興局  
農林水産部林務課  
林業普及指導員 吉田隆幸